学校番号	１０１３

令和　２年度　家庭科

教科	家庭	科目	服飾手芸	単位数	２単位	年次	３年
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇さまざまな手芸に関心をもち、積極的に製作に取り組みましょう

・刺しゅう、染色などに関する知識と技術を身につけるとともに、それを活用し、工夫して作品を製作していく。

・ファッションデザインに活用できるような能力と実践的な態度、プレゼンテーション能力を身につけます。

・作品を意欲的、創造的に製作しましょう。

2　学習の到達目標

手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	手芸の種類、特徴、技法などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	服飾への活用を想定した手芸品の製作について生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力や発表能力を身に付けている。	服飾材料としての各種手芸の技法などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	手芸の種類、特徴、変遷、技法などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 実習中の態度 プリントの記述 自己評価　等	学習状況の観察 プリントの記述 下絵・デザイン図 発表取組み・製作作品 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 プリントの記述 製作品 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 プリントの記述 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	刺しゅう	○クロスステッチ等による 手芸作品の製作 ・クロスステッチとは ・歴史と変遷 ・布の種類 ・図案の考案 ・製作・縫製・仕上げ	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ 	a:刺繍の歴史、手法に関心を持ち、実践的な活動を通して意欲的に取り組もうとしている。 b:歴史の変遷から現在の服飾への活用としての課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:刺繍についての基本的な技術を実習を通して身につけている。 d:刺繍の歴史や変遷、様々な種類について理解し、服飾へ活用するための知識を身につけている。	授業観察 プリント 小テスト 自己評価 製作物
	染色	○しぼり染めによる作品の製作 ・染色の歴史 ・染色の種類 ・染色実習	 ○	 ○	 ○	 ○ ○ 	a: 様々な染色の歴史、手法に関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 歴史の変遷から現在の服飾への活用としての課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c: 染色についての基礎的基本的な技術を実習を通して身につけている。 d: 染色の歴史や変遷、さまざまな種類について理解し、服飾へ活用するための知識を身につけている。	授業観察 プリント 小テスト 自己評価 製作物
	製作の計画	○刺しゅうや染色等の習得した技能を生かした作品制作の計画作成 ○製作 ○製作まとめ	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○	a：技能を生かした作品の計画になっている。 ｂ：自分のオリジナルの作品が考えられている。 ｃ：基本的な技法ができているか。 ｄ：手芸の技法が正しくできている。	

2 学 期	作品製作	○作品の改善の計画 ○作品製作	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a：作品の見直しができている。 ｂ：作品に工夫の観点がみられる。 ｃ：基本的な技術が生かされている。 ｄ：手芸の技法が正しくできている。 a：計画に従ってできている。 ｂ：自分のオリジナルの作品が考えられている。 ｃ：基本的な技法ができている。 ｄ：手芸の技法が正しくできている。	授業観察 プリント 小テスト 自己評価 製作物
3 学 期	作品の改善・工夫	○製作の最終まとめ・考察 ○最終発表	○ ○	○ ○	 ○	○	a：作業過程がしっかり書かれている。 ｂ：工夫や改善点がわかりやすい。 ｃ：習得した技法が組み込まれている。 ｄ：手芸の技法が正しく利用されている。	授業観察 プリント 小テスト 自己評価 製作物

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解